



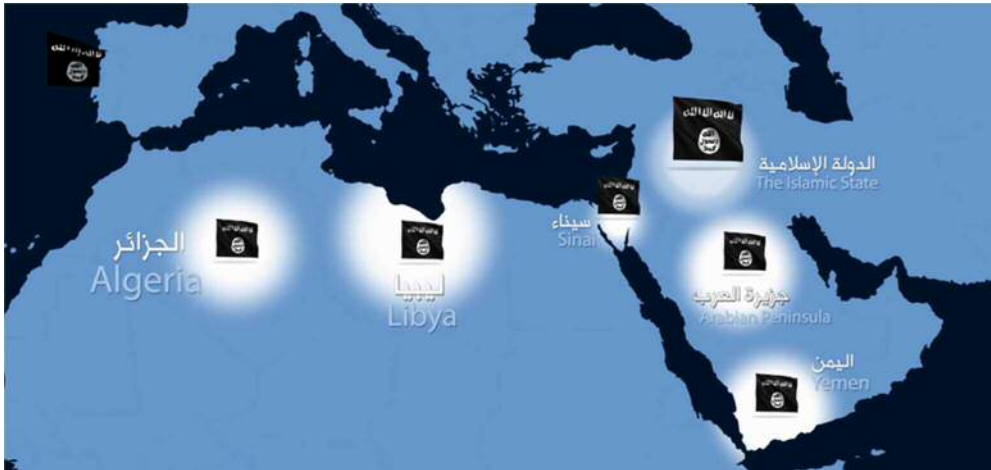
## イラク、シリア：「イスラーム国」が第三の米国人を処刑

2014年11月16日、「イスラーム国」はインターネット上で映像を発表、シリア軍の兵士多数を斬首する映像、アメリカ人のピーター・カッシング氏の切断された頭部の映像と共に、オバマ大統領に対し映像中の斬首が将来のアメリカ兵の運命であると脅迫した。また、映像には、13日に出回ったシナイ半島、リビア、アルジェリア、アラビア半島、イエメンの個人・団体から寄せられた忠誠の表明をアブー・バクル・バグダーディーが受け入れる演説が引用され、「イスラーム国」が「拡大」する様子を視覚的に訴えかけるプロパガンダ映像も含まれている。この演説では、バグダーディーが忠誠の表明を受け入れることと並んで、忠誠を表明した団体に対し既存の名称を廃し「イスラーム国」の「州」を名乗るよう述べている。これを受け、シナイ半島で活動していた「エルサレムの支援者団」は直ちに声明・映像などの名義を「(「イスラーム国」) シナイ州」に変更している。

画像1：既存の国家・国境が描かれた中東地域の地図



画像2：「イスラーム国」の旗が打ち立てられることによって既存の国家・国境が消失し、アラビア語の伝統的な地域名が表記されている。



画像 3 : 「イスラーム国」に忠誠を表明した個人・団体が所在するとされる地域に「イスラーム国」の旗が表示され、「イスラーム国」の勢力拡大を印象付ける。

出典：画像 1～3 はいずれも「イスラーム国」が 16 日に発表した映像ファイルより。

## 評価

今回の映像での注目点は、これまでのアメリカ人、イギリス人の斬首映像と異なり、カッシング氏を引き出し、斬首する場面が収録されていなかったことである。この映像には、斬首された後の同氏の頭部だけが映し出されている。また、これまでは次の人物が処刑予定者として紹介されていたが、今回は次の処刑予告は行われなかった。さらに、映像の前半部分は「イスラーム国」の外国人戦闘員の新兵・訓練修了者と思しき者十数名が各々シリア軍の兵士を斬首する場面であり、16 日付『Daily Mail』紙は彼らのうち 1 名がイギリス国籍の者であると報じた。映像を見る限り、「イスラーム国」は依然として多数の戦闘員を擁し、敵対者を容赦なく処刑し、さらには世界各地に支持が広がっているかのような印象を受けるかもしれない。しかし、カッシング氏の斬首について、斬首場面も次の処刑予告も収録されていなかった点から、「イスラーム国」が従来ほど容易に欧米諸国人の人質を引き出したり、処刑したりできなくなっている可能性も考えられる。

「イスラーム国」は、13 日に貴金属貨幣を鋳造して流通させると発表しているが、これについても、「イスラーム国」が理想視するイスラーム統治に回帰しているとのプロパガンダにはなろう。だが、「イスラーム国」自身が外部から寄せられる資金の受け取り、石油などの密輸代金の決済、戦闘員を雇う賃金支払いを彼らの通貨で行うとは考えにくい。「イスラーム国」が自身の活動を支えるために、彼らが暴君の経済体制と主張する現在の経済・通貨体制に依拠する一方で、占拠した地域の住民に対し“イスラーム的な”貴金属貨幣の使用を強制するようなことは、自己撞着に他ならない。

このように、「イスラーム国」の発信する情報には様々な分析材料や考察すべき点が含まれており、それがプロパガンダであることを十分意識しなくてはならないだろう。

(イスラーム過激派モニター班)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799